

[] 諸隊の結成

1863年に高杉晋作により奇兵隊が結成されて以来、長州藩内では諸隊が次々とつくり、銃の訓練などが行われました。

徳山藩でも農民を集めた銃陣小隊や家臣や農民を集めた銃陣小隊や農民、町人の有志で結成された山崎隊などの諸隊がつくり、また練兵塾が開設されるなど幕府との戦いに備えて軍備が整えられていきました。

諸隊のひとつ献功隊は家臣で結成されたいくつかの隊を統合したもので、17歳から40歳までの者たちで編成されました。当時の隊志は、ちょんまげ姿で腰には刀をさしていますが、服装は洋服に靴という洋装でした。



戊辰戦争

1868年1月 鳥羽、伏見で始まった幕府軍と薩摩、長州軍、とのたたかいは、この年が戊辰の年から戊辰戦争と呼ばれています。

この鳥羽、伏見の戦いでは薩摩、長州軍が勝利しましたが、その後の戦いの舞台は東北、北海道へと移りました、

徳山藩からもこの年9月山崎隊と、献功隊の2藩が秋田に向けて出陣しています。

この戦いに献功隊の一員として従軍した藩の御用絵師

朝倉震陵の子、練冶は「献功隊奥羽蝦夷出張中

風説」という記録を残しています、

[] 版籍奉還

1869年1月20日、薩摩・長州・十佐・肥前の四藩主は、版籍奉還(土地や人はすべて政府の支配とする)の建内書を新政府に提出し、これにならう藩が相次ぎました、

6月17日新政府はこれを許し、旧藩主を藩知事に任命しましたこれにより元藩主も徳山藩知事に任命されました。

